

CHAPTER  
03

第3章

自衛消防力の強化

031 自衛消防訓練の実施

033 通報訓練の実施例

035 消火訓練の実施例

036 避難訓練の実施例

037 column 3 防火管理者 番外地

### 第3章

## 自衛消防力の強化

6月某日



## 自衛消防訓練の実施

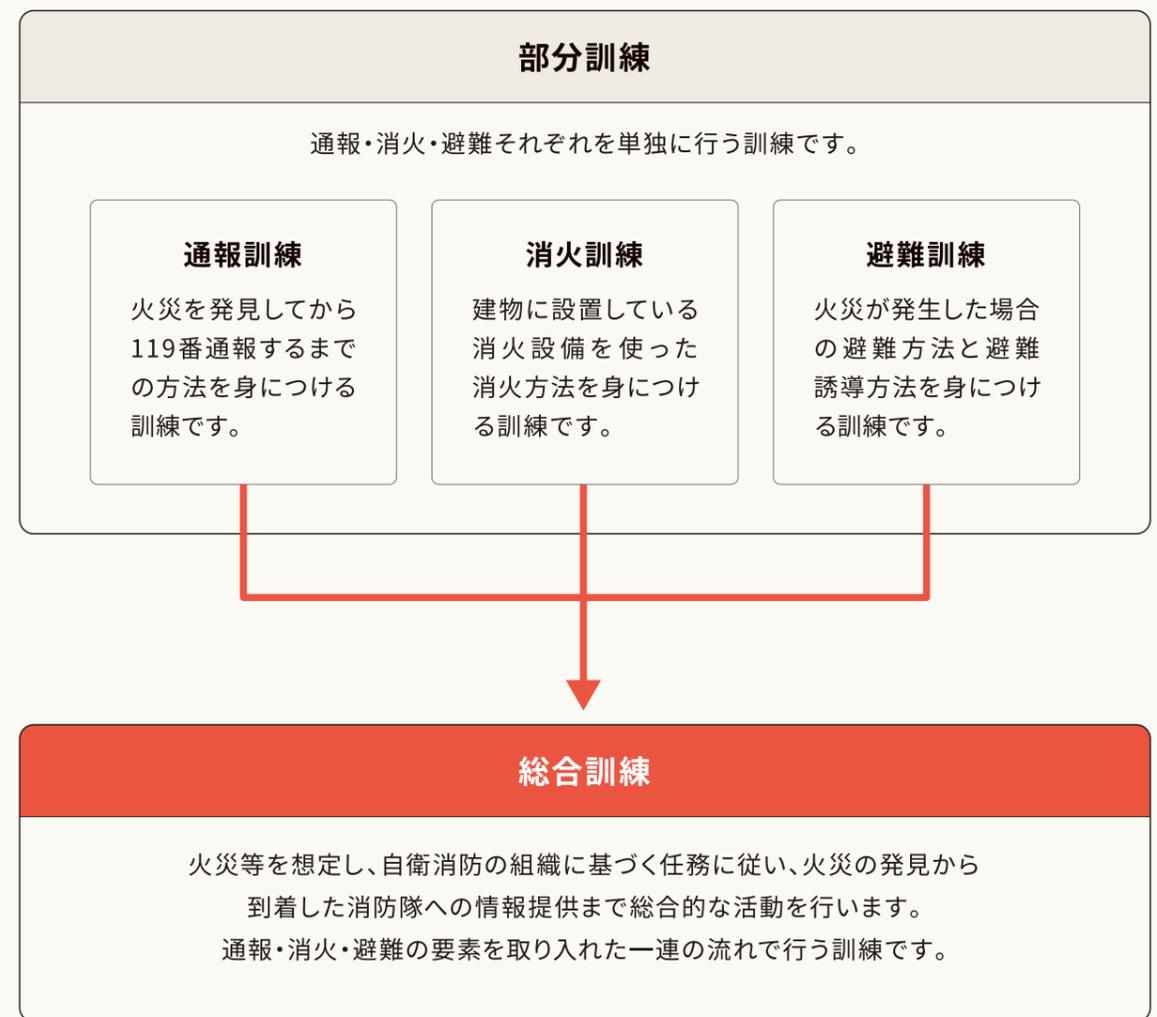
### 自衛消防活動と訓練の重要性

自衛消防活動の目的は、自己の事業所で火災等の災害が起こった場合に被害を最小限に止めることです。被害を最小限に止めるためには、自衛消防隊員が連携して、迅速・的確に活動する必要があります。

そのためには、定期的な訓練の実施が必要不可欠です。それぞれの建物に応じた火災危険を把握し、より実践的かつ効果的な自衛消防訓練を実施し、防火管理体制の充実・強化を目指すことが重要です。

### 自衛消防訓練の種類

自衛消防訓練は、万が一火災等の災害が発生したときのとるべき行動を事前に学び、その行動要領を身につけるものです。訓練には、大きく分類して「部分訓練」と「総合訓練」に分けられます。



## 自衛消防訓練の実施回数

自衛消防訓練は、消防法令において「防火管理上必要な業務」の一つとして位置付けられており、建物の用途により実施しなければならない訓練の回数が決められています。

訓練種別	訓練回数	
	特定用途防火対象物	非特定用途防火対象物
消火訓練	年2回以上	消防計画に定めた回数
避難訓練		
通報訓練	消防計画に定めた回数	

## 訓練実施前の消防署への事前連絡

特定用途防火対象物の防火管理者は、訓練を実施する前に建物の所在する区の消防署に「自衛消防訓練通報書」の届出を行ってください。  で囲った部分が届出の対象になります。

## 自衛消防訓練の実施方法

自衛消防訓練は、火災等が発生した場合に備え、消防隊が到着するまでの間、自衛消防隊の各班が通報、消火、避難などの活動を迅速・的確に実施できることを目的としています。

そのためには、総合訓練を実施することが望ましいですが、業務の都合により人数が揃わない、時間的余裕がないなどの事情がある場合には、すべての訓練を一度に行う必要はありません。できるときに、できる訓練を、できるだけ多く、実施するようにしてください。

また、防火管理者は訓練を行う前に、従業員に対して消防計画で定めた自衛消防隊としての各自の任務を必ず周知してください。

 建物の構造などを一番良く理解しているのは、そこに勤めている従業員や暮らしている居住者の皆さんです。防火管理者が中心となって、従業員(居住者)全員と災害リスクを共有し、より実践的かつ効果的な自衛消防訓練を実施してください。

次のページからは、通報・消火・避難それぞれの訓練の実施例を紹介していますので、訓練を実施する際の参考にしてください。



## 通報訓練の実施例

通報訓練では、火災を発見してから119番通報するまでの方法を身につけましょう。

### 通報訓練 01

#### 従業員が火災を発見した場合の訓練



①「火事だー!」と大声で周囲に知らせる



②自ら119番通報するか、ほかの従業員に依頼する

### 通報訓練 02

#### 自動火災報知設備のベルが鳴った場合の訓練



①受信機で火災場所を確認する



②警戒区域図と受信機に表示されている場所を照らし、詳しい場所を確認する



③火元の確認に向かう



④火災を確認後、119番通報するか、ほかの従業員に依頼する

#### 効果アップPOINT

- ・自動火災報知設備の見方を確認しましょう。
- ・火元の確認に向かう経路で、消火器をピックアップできるようにしましょう。

### 通報訓練 03

#### 夜間時などの応援体制の連絡系統を確認する訓練



①「火事だー!」と大声で周囲に知らせる



②自ら119番通報するか、ほかの従業員に依頼する



③119番通報を行う

#### 効果アップPOINT

- ・訓練とあわせて、緊急時の連絡体制を確認しましょう。



④119番通報後、施設関係者や応援職員への連絡を行う

# 119番通報要領

「通報者役」と「消防役」に分かれて訓練を実施しましょう。

※訓練時、実際に119番回線を使用することは、お控えください。

## 訓練開始



通報者役

火事です。

119番消防です。火事ですか、救急車ですか。

住所はどこですか。わからなければ目標となる建物がありますか。

札幌市〇区〇条〇丁目〇番〇号(住所)、〇〇(建物名称)です。

その(建物名称)は何階建てですか。燃えているところは何階ですか。

〇階建ての〇階が燃えています。

何が燃えているかわかりますか。

〇〇が燃えています。

建物(店舗)内の人数、けが人や逃げ遅れている人はいますか。

建物全体で〇人ほど。〇階には〇人いますが避難可能です。

あなたのお名前を教えてください。

〇〇〇〇です。

わかりました。消防隊が向かっていますので避難をして待っててください。



消防役

## POINT

- ・身の危険を感じたら避難を優先しましょう。
- ・建物の規模や状況に応じて質問の順番や内容が変わりますが、一つずつ質問しますので落ち着いて回答しましょう。
- ・ほかの店舗数や入居世帯数などを事前に把握しておくことで、消防隊の迅速な消火・救助活動につながります。
- ・自動火災報知設備の受信機付近に、119番通報のメモを掲示することをおすすめします。

# 消火訓練の実施例

消火訓練では、消火器や屋内消火栓を使った消火方法を身につけましょう。

## 消火訓練 01

### 訓練用消火器を使い、消火器の使い方を体験する訓練



①黄色い栓を引き抜く



②ホースの先端を握り、ホースを火元に向ける



③レバーを握り、噴射する

**効果アップPOINT** ・できる限り多くの従業員に体験させましょう。

※訓練用消火器は、各区消防署予防課で貸出しを行っています。

## 消火訓練 02

### 消火器の置いてある場所を確認し、想定した出火場所に消火器を集める訓練



①従業員と施設内を回り、消火器の設置場所を確認する



②出火場所となりやすい場所を確認する



③従業員に出火場所を伝え、その場に指示した本数の消火器を集める

**効果アップPOINT** ・消火器は複数本連続して集中的に使用すると効果的であることを伝えましょう。

## 消火訓練 03

### 屋内消火栓(一人操作)の使い方を覚える訓練



①消火栓の扉を開けてノズルを取り出す



②バルブを開けてホースを延長する



③ノズルのコックを開けて放水する

**効果アップPOINT** ・機種により操作方法が異なるため、施設にある屋内消火栓の使い方を確認しましょう。

## 避難訓練の実施例

避難訓練では、火災が発生した場合の避難方法と誘導方法を身につけましょう。

### 避難訓練 01

#### 避難経路や避難施設を確認する訓練



①建物の避難経路を確認する

②避難時にエレベーターを使わないことを説明する

③建物に設置されている階段や防火戸を確認する

### 避難訓練 02

#### 基本的な避難誘導要領を確認する訓練



①火災が発生したことを建物にいる人に伝える

②火災の発生場所により、安全な避難経路を確認する

③避難後の情報収集と伝達方法を確認する

### 避難訓練 03

#### 実際に火災の発生場所を決めて避難する訓練



#### 避難誘導のPOINT

- ・避難器具は、ほかに避難の手段がない場合のみ使用する。
- ・避難誘導の際は、火災発生階と直上階を優先する。
- ・メガホン、携帯拡声器を活用する。
- ・一度避難した人を再び建物内に戻らせない。
- ・誘導員が避難するときは、逃げ遅れた人がいないことを確認し、必ず防火戸を開けて避難する。

column 3

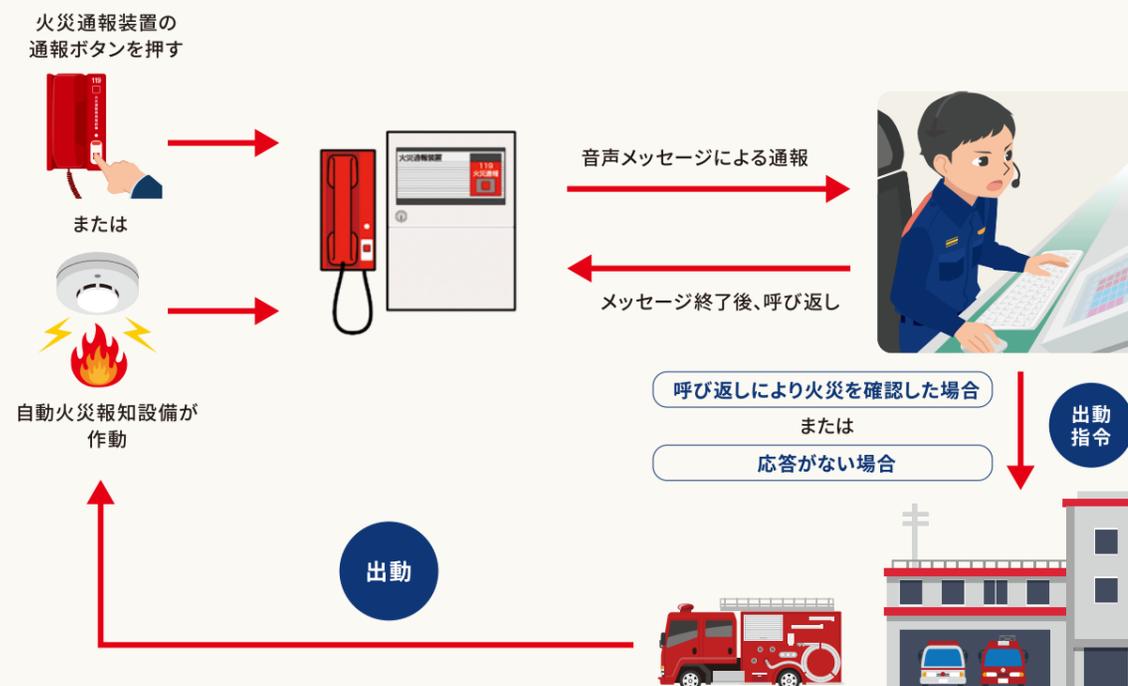
## 防火管理 番外地 ～火災通報装置の仕組み～

火災通報装置とは、電話回線を使用して消防機関を呼び出し、蓄積音声情報により通報するとともに、呼び返しにより、直接、消防指令管制センター（指令員）と通話を行うことができる装置です。



### 火災通報装置の仕組み

火災通報装置は、「ボタンを押す」だけで自動的に119番通報します。住所・場所がわからなくても自動的に音声メッセージが流れ、早期に消防車を要請できます。病院や社会福祉施設などの施設では、自動火災報知設備との連動が義務付けられている場合があります。



現場最前線  
～消防士の一言～



札幌市の消防指令管制センターが受け付ける一日の平均通報件数は400件弱に及び、およそ4分に1回のペースで通報があるということになります。

一件あたりの通報時間が長くなってしまうと、次にかかってくる通報に対し、迅速な対応ができなくなる場合があります。

指令員は、通報受付のプロフェッショナルです。安心して、聞かれた質問に対し、慌てず、落ち着いて答えるように心がけてください。